

## キーワード

- ① ネット詐欺
- ② スパイウェア

金沢大学教育学部講師 阿濱 茂樹

### ① ネット詐欺(フィッシング詐欺・ワンクリック詐欺)

インターネットは、Webページ同士のリンクや、電子メールとWebページのリンクが手軽にできるため、リンクするしくみを悪用したワンクリック詐欺やフィッシング詐欺が発生している。

ワンクリック詐欺は、広告サイトや勧誘メールなどからあるページに移動(ジャンプ)すると、偽の有料サイトが表示され、料金を請求される詐欺である。中には、料金請求だけでなく、携帯電話の固体識別番号やパソコンのIPアドレスなど、個人情報を相手が把握していることを示唆する情報もあわせて表示されるため、不安にさせる心理を煽り被害が広がる恐れがある。携帯電話の固体識別番号やパソコンのIPアドレスは、インターネット上で通常やり取りされている情報であり、プロバイダ以外の業者が利用者を特定することは困難である。

対策としては、興味本位で会員を勧誘するWebページなどを閲覧しないようにすることのほか、万が一、料金請求のページが表示されても、冷静に対応する必要がある。

フィッシング詐欺は、金融機関やクレジットカード会社を装って利用者に電子メールを送り付け、個人情報(特にIDやパスワード)を入力させるWebページに誘導する手口で、個人情報などを不正に取得する詐欺行為である。その多くは、送信者(差出人)が金融機関やクレジットカード会社であるかのように偽装したメールを送りつける手口で、メール本文に「パスワードの有効期限切れ」や「新たなサービスを追加する」ことなどを理由にして、個人情報を入力するWebページに誘導する内容が書かれている。誘導されるWebページは、金融機関などの正規のWebページを装ったり、本物のWebページの上に別のウ

ィンドウを表示するように細工し、利用者を安心させる仕掛けを施していたりするものが多い。

対策として、クレジットカード番号やパスワードを問い合わせる電子メール、Webページに注意しなければならない。また、電子メールのヘッダーの部分を表示したり、URLを直接入力することによって、正規の案内であることを確認する必要がある。

### ② スパイウェア

スパイウェアは、コンピュータの内部に保存されたユーザの個人情報やWebページの閲覧履歴などを収集し、特定のコンピュータに送信するソフトウェアのことである。スパイウェアはユーザに有益なソフトウェアと称してインストールを促すものや、勝手にインストールされるものなど様々な種類が存在する。ユーザの画面に勝手に広告を表示するアドウェアも、ユーザの嗜好などを自動的に分析する機能などを備えており、スパイウェアの一種と分類される場合がある。アドウェア以外は、コンピュータ内部で密かに活動するため、ユーザはスパイウェアが潜んでいることに気づきにくい。コンピュータウイルスとの違いは、ユーザに気づかれぬように活動するため、コンピュータの動作に変化が見られる場合が少ないことである。コンピュータのシステムに悪影響を与える場合も少ないが、ユーザの個人情報を流出させるなど、プライバシーを侵害する性質は強い。

スパイウェアが潜んでいる兆候として、次のような症状が考えられる。

- ・コンピュータが勝手にインターネットに接続し、データを送受信する
- ・お気に入り(ブックマーク)に見知らぬページが追加されている
- ・ブラウザに見知らぬツールバー(ボタン)が追加されている
- ・意図しない広告が勝手に表示される

スパイウェアの対策として、セキュリティ対策ソフトウェア(スパイウェア対応)の導入などが考えられる。